

令和3年度 第2回 日進市環境まちづくり評価委員会 議事録

- 日 時 令和3年11月18日(木)
午後4時から午後5時30分まで
- 会 場 市役所本庁舎4階 第3会議室
- 出席委員 小林敬幸(会長)、島田知彦(委員)、武田美恵(委員)、谷口功(委員)、森下英治(委員)
- 欠席委員 伊藤佳世(副会長)、石橋健一(委員)
- 事務局 萩野一志(生活安全部長)、近藤伸治(環境課長)、河村秀根(環境課長補佐)、片岡麻里(環境課ESD推進係長)、宮田大(環境課ESD推進係主任)、山内まり恵(環境課ESD推進係主事)

●傍聴者 2名

●内容

□事務局開会を宣す

□出席委員の確認 7名中5名の出席。日進市環境まちづくり評価委員会規則第3条第2項の成立要件を満たしていることを確認。

議題

(1) パブリックコメントの結果について

会 長：それでは、議題「(1) パブリックコメントの結果」について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

会 長：ご説明ありがとうございました。それではご意見、ご質問がありましたらよろしくお願ひします。

委 員：パブリックコメントの募集をどういう形で市民に示したかを改めて教えてください。

事務局：広報への掲載、市ホームページ、市役所本庁舎1階の情報公開窓口及び2階の環境課窓口、また、議員の方への周知も行いました。

委 員：最初の頃にもパブリックコメントが出なかった時期があつて、周知方法を工夫してきたと思いますが、近年の件数を表で示していただくと参考になりますので次回以降よろしくお願ひします。

委 員：パブリックコメントを促すのが適切かどうかは分かりませんが、さまざまな関係団体があります。関係団体へのヒアリングをしながら、具体的に年次報告の状況を市民に説明し、それを受けるといふこともやっていかないと、0件が決して悪いわけではないですが、市民の意見を聞く仕組みとして検討していただきたいです。

会 長：今後そういった関係団体との共同作業もあるかと思ひますので、その際には配慮もしていただきたいと思ひます。

事務局：次期計画の策定に向けて、その部分は重視しながら繋がっていく計画になるようにし

ます。

議題

(2) 日進市環境基本計画年次報告書(案)について

会 長：それでは、議題「(2) 日進市環境基本計画年次報告書(案)」について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

会 長：ご説明ありがとうございました。それではご意見、ご質問がありましたらよろしくお願ひします。

会 長：確認ですが、次期日進市環境基本計画の策定期間はいつでしたか。

事務局：令和4年度、5年度の二か年で策定していきます。次期計画は令和6年度からのものになります。

委 員：I. 暮らし全般・エネルギーの進行管理指標I5「ISO14001取得事業者数」にエコアクション21を入れるかどうかという話が前回あり、入れるということになりましたが、以前のデータには含まれていなかったということではなかったですか。

事務局：以前から含まれていました。

委 員：今回は、明記するようにしたということですね。

事務局：そのとおりです。

委 員：答申(案)の文章に、SDGsという文言が入っていますが、これまで推進してきたESDは入れなくてよいのですか。

事務局：SDGs達成に貢献できる担い手づくりということでESDを推進してきましたので、追記します。

会 長：答申(案)については、次の議題で確認いたします。年次報告書のなかにはESDの文言はありますか。

事務局：本日の資料にはありませんが、年次報告書の5ページに記載しています。

会 長：日進市が重要視してきたESDについて、次の議題である答申(案)において修正するというので検討したいと思います。

委 員：I. 暮らし全般・エネルギーの進行管理指標I4「市役所環境保全のための行動計画達成率」が年々低下していますが、達成すべき項目を達成し、やることがないため低下しているのか、それとも何か別の理由があるのですか。

事務局：行動計画のチェックシートがあり毎月職員に入力してもらっていますが、その中の一つに「エコモビの実施」という項目があります。この項目により、年々低下していることが要因です。

委 員：「エコモビの実施」という一つの指標でやるので、達成率が低下してしまうのではないかと思います。クールチョイスの推進はエコモビだけではないので、そういった指標を見直していけば、達成率も変わってくると思います。

事務局：自動車通勤が中心になってしまっていて、くるりんばすを職員が積極的に利用することも検討していますが、なかなか実行には移っていません。行動計画の項目は、別の取組

をやったら評価できるようにするなど、今後はや評価方法も検討していきます。

委員：※（アスタリスク）の付け方を統一していただきたいです。

事務局：統一します。

議題

（３）答申（案）について

会長：それでは、議題「（３）答申（案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局より説明）

会長：ご説明ありがとうございました。それではご意見、ご質問がありましたらよろしくお願ひします。

会長：先ほどのESDに関して、3段落目の2行目の先頭に入れればよいと思います。文言としては「現計画開始より推進してきたESD、」としたいと思います。

会長：きちんと振り返って、評価可能といえますか、推進できるような項目で次は進めていくような計画にしてほしいと思います。また、後ほどその他で議論いただきますが、そういったことを伝えられるような答申内容になっていると思います。

会長：2段落目の2行目にある設定という文言は、特別な意味はありますか。

委員：指標とその指標に対する値の設定という意味ではないですか。

会長：確かにそうですね。指標そのものとその指標に対する数値という意味ですね。

会長：それでは先ほどのESDの文言を追加して成案とします。

事務局：本日指摘していただいた箇所を追記したものを作成し、会長、副会長の一任を持ってご確認いただくということでよろしいでしょうか。また、本日はこの（案）のままで会長から答申いただくということでよろしいでしょうか。

委員：（異議なし）

事務局：それでは答申を行います。

—（答申）—

事務局：ありがとうございました。環境基本計画年次報告書は膨大な資料ではありますが、皆様には細部に渡りお目通しをいただきまして、専門的な知見からさまざまなご意見を頂戴いたしましてありがとうございました。残りの現計画の期間もしっかり推進できるように引き続き努力してまいります。また、答申にもありましたとおり、令和4年度と5年度で行う環境基本計画の見直しをして令和6年度から新たな環境基本計画が開始します。これまでいただいたご意見は、次期計画に反映しながらよりよい計画になるよう引き続き努力してまいりますので、これまでと同様、皆様には日進市の環境行政にご協力、ご尽力いただきますようお願いいたします。また、現委員の皆様には、今年度の会議を持って任期を終了することになります。これまでの2年間、さまざまなご意見を頂戴いたしましてありがとうございました。繰り返しになりますが、今後

もこれまでと同様、皆様には日進市の環境行政にご協力、ご尽力いただきますようお願いいたします。

会 長：皆様のご協力のもとに無事、答申することができました。ありがとうございました。

3 その他

日進市第1次環境基本計画のふりかえり

会 長：それでは、続きまして、「3 その他」に移ります。日進市第1次環境基本計画のふりかえりについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局より説明)

会 長：ご説明ありがとうございました。それではご意見、ご質問がありましたらよろしくお願いします。

委 員：分類1と分類2について、どちらも次期計画に生かしていくことを前提にして、継続可能なものと、見直しが必要なものとを分けていて、その前提となっているのは、参考資料の分野別計画における環境まちづくりビジョンがもとになっている。次期計画においても、このビジョンは変わらないのですか。このビジョンは2024年に向けて作られているので、次の20年にするのか分かりませんが、ビジョンが変わってくる可能性があるとする、それによって継続可能というものであっても、なくなるものもあるかもしれないし、また新たに生まれてくるものもあるかもしれないし、そこはどのように考えていますか。

事務局：現計画のものを達成が難しいからといって削除してしまうということは考えておりません。現計画のビジョンは、市民の方が皆様で話しながら必要な項目として挙げていただいたものですので、これを前提に、これを実現していくにあたって、どこが前回問題があったかを確認して、その中で丁寧に話し合いをしながら、修正できるものは修正していくというような進め方をしていきたいと考えています。まずは現計画の中身を重視した形で進めるつもりです。

会 長：スタートはそうだと思いますが、縛るものではないということも合わせて確認した方がよいと思います。ゼロベースではないですが、このふりかえりをもとに整理して、それから考えていくということですね。前回、どういう協議体で作っていったのか分かりませんが、その作り方も含めて、また新たに考えていくということになるわけですね。この委員会としては、縛ってはいけませんので、継続可能なものを継続してくださいという意見を述べるわけではないということですね。

事務局：今回、皆様からのご指摘を受けまして、なぜ、いままで進まなかったかを去年と今年で検証してきました。今後そういうことを含めたなかで、市の仕組みというのも市民の方には理解いただきながら、今までのやり方がすべてではないので、新しいやり方も工夫しながら議論していくというのをベースに考えています。

会 長：達成率0%、進行管理指標22%というのも事実としてあります。数字だけを見れば、低いと感じますので、事実をもとに議論していただくとよいです。

会 長：分類2についてはいかがでしょうか。

委 員：数や量にこだわっている印象があります。それを評価基準にしているから把握しきれしていない項目があると思います。そこで、質、たとえば分類2のC2、C3、E1、このあたりで、森林の間伐を進めなければならないところで優先順位を付けるわけです。それを市民の水源林になっているから優先的に進めなければならないとか、すべての森林が重要ですが、この中で優先順位を付けるわけです。それで、たとえば緑地とか里山林でも環境指標植物ないし環境指標生物、これらが存在している、これらを保有する樹林を選定することによって、選定された樹林地において調査、評価すると、そのなかで指標となる生物がいなくなったら終わりだということは生物学的に分かっているわけです。これは、評価として大変分かりやすいです。里山もどれも重要ですが、残念ながらすべては把握しきれないので、これは必ず守らなければならないという樹林地を選ぶべきだと思います。湿地にしても、里山林にしても、選定することによって評価が可能になります。今は数や量にこだわりすぎているので、それを質の評価に転換してはどうかという提案です。特に自然系に関しては、環境指標植物、生物、また同時にこれを絶対失ってはならない、それらを守っていく意味でも、こういう評価はきちんとしていかないといけないと思います。おそらく、それが生息している樹林とそうでない樹林があるはずですが、そういったことを市民に協力してもらって調査するというのも大切なことです。それをしたうえで選定すると、そこですでに市民が活動として参加していく、また自分の住むところの自然に対して学習することになるというきっかけにもなりますし、そうして作っていくものになると思います。

会 長：言い方を変えると×にならないかどうか、○と×の話ですね。経過を見なければいけませんので、質というのは、これは守られているから○、守られている状況でなくなったから×という方法で評価していくということですか。

委 員：点数化です。たとえば、土壌の中の生物で、ダニやアリなど、数も種類も豊富な生物は点数が高くないですが、数も種類も少ない生物は点数が高くなります。これらの生物が消滅するということは、土壌としての豊かさを失っているという評価指標があります。そうやって点数化していくと実際に調査してみたところ、100点に近づくほど、達成率が高まるので、○か×ではないです。達成率として予め数値化しておくということですか。

会 長：生物多様性の評価を数値化する手法を取り入れようということですか。

委 員：そういうことです。数値化すれば明確です。それが数や量になっているから漠然としているので、達成率が評価しづらくなっている、仕組み作りから変えないといけないと思います。

会 長：科学的な観点も取り入れて評価する必要があるということですね。子どもも学習も含めて調査できるということですね。

委 員：はい。自然に関する興味、関心も高まります。

会 長：ESDに関わる、より深みのある指標になるということですね。

委 員：たとえば、森の健康診断といって、ある一定の地域を決めて、植生も含め、どういう生物がいるかを調査している自治体もありますので、細かいところの設定は必要かと思いました。

また、さきほどの答申の中でSDGsも出てきました。大きな話になりますが、指標が169のターゲットのどれに当てはまるのかといったようなことを丁寧に見て、どういう指標を設定すれば、ターゲットと連携するのかといったことを精査できるとよいかと思いました。さらに、2050年ゼロカーボンも含めて、そのロードマップを指標がきちんと達成していくような見え方にしておかないと、これまでと同じ10年になってしまうと思いますので、世界レベルでも達成できるような数字、ほかにも食品ロスの話も他の自治体ではありましたが、これも精査する道具になるかと思いました。

事務局：次期計画の見直しと現計画との大きな違いは、地球温暖化が待ったなしの状態になっていることです。見直しでは、それを大きく重視していくことになりますので、それにつながる目標設定というものを議論していかなければならないと考えています。また、食品ロスについては、現在、一般廃棄物処理基本計画の見直しを行っていますが、主の目標のなかに食品ロスの削減も位置付けて進めています。

会長：環境まちづくりは、中央省庁でいうと国土交通省も関わります。環境省からは、地域循環共生圏というかなり強いメッセージが出ています。それに対して予算が出されているようなことがありますので、そのなかに地域でエネルギーを作りましょうとか、資源循環しましょうとか、そういった話があるわけですが、特に地域の中から出ているお金の70から80%はエネルギーに関するもので、それを出さなくすれば地域で回るので、地域の活性化になるというのが、あの計画の中心だそうです。地域の活性化というのは経済の活性化でもあるので、それとエネルギーとが関わっていて、あと資源循環はごみとの関わりだと思えますが、そういう整理もするとよいと思います。経済の活性化は絶対に必要なもので、お金だけの関わりだけでなく、質の問題もありますので、そこを深く考える必要があると思います。もちろん、地球温暖化は地域だけの問題ではないですが、新しいライフスタイルが最近のキーワードになっています。電動化や5Gも変革の一つの道具ですから何か違う観点も必要だと思います。現計画のビジョンはよくできていますし、頑張っただウンして数値化したと思いますが、このビジョンがどう変わっているかというところを考えていただいて、これからは質の指標も必要になると思います。数字ではない指標が何かあるとよいと思います。

事務局：再検討が必要なところは、ご指摘のとおり、数字ばかりでまとめるのではなく、質だと思います。それぞれの要素で何が重要なのかということを見る目を変えて、指標がどうあるべきかを考えていきたいと思えます。

会長：たとえば、街の景観というのが入っていないです。自然というのではなくてです。

事務局：まちなみでいうと保存地区のところだけに集中してしまっているの、これからのまちなみがどうあるべきかを考えていきます。環境基本計画は、都市計画でいうと都市計画マスタープランにあたりますが、環境とはいうものの生活様式も含めて、さまざまな内容が含まれて今のビジョンが作られています。一番そこに影響してくる地球温暖化を入れると、今後どのような考え方になるのかについて、総合計画、他計画と整合性が取れるよう調整していく必要があります。今後、令和4、5年で次期計画を策定していく中で、他計画とのつながりも考え、部署間の調整もしながら進めていくよ

うに考えています。

委員：質が必要なことには同意します。一方、数値化もしておいた方がよいこともあります。たとえば、先ほどエコモビの話がありました。職員は原則、公共交通機関で通勤という自治体もあります。今後、いきなり全員というのは難しいとは思いますが、エコモビを実施していくために、課ごとに一週間は公共交通機関で来るようにすることも考えられます。くるりんばすの課題を解決するために、職員も実際に乗ってそれを実感しないとなかなかうまくいかないものです。くるりんばすの見直しも含めて、なおかつ公共交通機関の利用も含めて、きちんと職員がコミットできる仕組みは用意した方がよいと思います。そうすると、それに見合った働き方改革も進んでいくかと思いません。今ある条件を前提に作っていくのではなく、大胆に見直していくという指標のあり方が問われると思います。

事務局：職員が変わらないと地域も変わらないと思います。SDGsの所管は企画政策課ですが、連携を強化して環境課の発言権も強くしていくように努力しています。先ほどのエコモビの実施率が上がらないのは、職員の甘えもありますので、続けることは難しいですが、定期的な実験を行ってそれに職員が参加することが大事です。各部署に投げかけて変わっていかねばと考えています。

会長：日進市はゼロカーボンシティ宣言をしていますか。

事務局：現状していませんが、宣言するために準備は進めています。

会長：その宣言が一つのきっかけとして大きいですね。環境課が頑張らなくても動くような仕組みを是非考えてほしいです。これを前提に考えないと絶対に長続きしないです。計画を作成するときには、できないことはできないとはっきり言っていたきたいと思います。

委員：さまざまな環境政策をするときに、自治体の悲願みたいなものがあると進めやすいと思いますが、日進市にとっての環境まちづくりの悲願はありますか。

事務局：ごみ問題については、再資源化を近隣自治体の中では積極的に行ってきました。地球温暖化対策についても、日進市が積極的に取り組んでいかななくてはならないと思っています。

会長：何をもちて住みやすいかという観点が欠けていると思います。理想郷があって、どちらかというところからのアプローチになっているようですが、生活感がにじみ出るようなまちづくりというのにも必要だと思います。この地域の地形や土地の特徴を生かしたのもあってもよいと思います。

委員：さっきのエコモビの話ですが、公共交通機関を使わないといけないという選択肢一本というのが厳しいと思います。その代わりに何かそれに値する別のエコライフやクールチョイスを実行したら評価するなど、柔軟性のある選択肢も必要です。コロナ禍でリモートワークが推奨されましたが、今後も公共交通機関を推奨すると今の時代に合わせた方法ではないです。リモートワークは職員に浸透しましたか。

事務局：広く浸透していません。環境課ではオンライン会議も積極的に開催しています。最近サテライトオフィスができましたが、今後どう浸透していくかも提案していきたいと思っています。エコモビについてですが、公共交通機関だけでなく、自転車による通勤を実施している職員もいます。今後は働き方改革も含めて工夫していきたいと思っています。

委員：自動車を使わないということだけでなく、それに値する代替行動を取ったらよいというふうにしないといけないと思います。

委員：ペーパーレスは積極的に実施していますか。

事務局：徐々には変わってきています。本日も傍聴の方の資料は電子媒体で見えていただいています。紙も電子もそれぞれ長所、短所がありますので今後もさまざま試していきたいです。

会長：たくさんの意見をいただいた中で、次に上手く繋げられるような議論ができたのではないかと思います。これで議題は全て終了いたしました。本日はお忙しい中ご協力いただき誠にありがとうございます。事務局よりご案内がありましたらお願いします。

事務局：それでは今後のスケジュールについてご案内します。本日指摘いただいたところを修正して、年次報告書と答申書をホームページに掲載します。それでは令和3年度第2回日進市環境まちづくり評価委員会を閉会いたします。

(午後5時30分)